

きもちのしるし

kimochi-no-shirushi 2011年4月～2012年3月



日本赤十字社
海外救援・復興支援
活動報告

©Masako Imaoka / MRCS / JRCs



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

国を、民族を、宗教を越えて支えあう。 人と人の絆があります。

赤十字は災害で苦しむ世界中全ての人に、いのちと健康・尊厳を守る支援を届けています。

昨年の東日本大震災の際も、世界中の赤十字からたくさんの支援が寄せられました。

この冊子では、日本赤十字社がみなさまからお預かりした海外救援金を活用して

1年間に取り組んだ救援・復興支援についてご報告します。

あたたかいご支援を、ありがとうございました。



ニュージーランド地震

2011年2月

現地の日本人被災者へのこころのケア



日本人の母親に子どもの様子を聞きアドバイスをする日赤こころのケアチーム

ニュージーランド南島クライストチャーチ市近郊で大地震が発生。日本からの語学研修生など28人を含む約180人が犠牲になりました。

日本赤十字社は、こころのケアチームを約1カ月間派遣。ゆったりとくつろいで相談できるスペース「赤十字カフェ」や、24時間電話で相談できる「赤十字こころのホットライン」を通して、現地で被災した日本人や家族の方々に寄り添いました。日本語での対応は、より精神的な支えとなり、信頼関係と絆が生まれました。また、日赤はニュージーランド赤十字社と協力し、日本人の安否調査に取り組むとともに、救援活動への資金援助も行いました。



ひな祭りには、現地のおさんからぬり絵のプレゼント
相談者のこころが少しでも和むよう、赤十字カフェに飾られた



余震が続く中、ニュージーランド赤十字社の捜索救助チームが懸命に活動

救援金の受付額 5億5,889万4,260円

中近東人道危機

2011年2月

リビア武力衝突、避難民のいのちを守る赤十字



リビアからチュニジアの避難民キャンプへ逃れてきた人々

チュニジアとエジプトで起きた反政府運動をきっかけに中近東での混乱が拡大、リビアにおいて現体制に反発するグループと治安部隊との激しい武力衝突が続きました。一般市民が巻き込まれ、多くの死者・負傷者がが出る深刻な事態に。いのちの危険から、リビアを脱出し隣国へ押し寄せた避難民は数十万にのぼり、人々の普段の暮らしが一瞬にして奪われました。

国際赤十字は、現地に医療チームを派遣し負傷者の手当を行うほか、救援物資や食糧・水を配付し救援活動を展開。日本赤十字社は、これらの活動へ資金援助を行いました。



離れ離れになった家族を探すため登録をする避難民



避難民キャンプでの赤十字ボランティアによる炊き出し

救援金の受付額 483万1,460円

世界各国の洪水

2010年12月～2011年1月

豪雨、一瞬にして 世界各地が浸水

世界各地で相次いだ大規模な土砂崩れや洪水により、各地で数万～数百万人が被災、家や農耕地も浸水し深刻な被害が発生しました。各被災国は赤十字社は、避難所の運営、救援物資の配付、医療サービスの提供など懸命な救援活動を行いました。現在も、人々の住宅再建・生活再建への支援を続けています。日本赤十字社は、こうした活動へ資金援助を行いました。



©オーストラリア赤十字社
一面が水で覆われたクイーンズランド州
主要産業である炭鉱と穀物畑も冠水し、
深刻な経済損失をもたらした

救援金の受付額 1,549万6,670円



被災者を救助する赤十字ボランティア
2004年のスマトラ沖地震・津波災害後、多くのボランティアが
育成され今回の救援活動で活躍した

救援金の受付額 1,032万2,730円



被害状況を調査するブラジル赤十字社のスタッフ
死者902人、過去40年間で最悪の災害となつた

救援金の受付額 3,244万3,750円

中国豪雨

2010年5月

1年半にわたる支援が完了

中国各地で発生した洪水・土砂災害のために、日本赤十字社は被害が集中した四川省、陝西省、雲南省の約2万3,800世帯へ、食糧や防寒服などの物資を届けました。日本からの救援金は、国際赤十字による避難者への救援物資や地域ボランティアによるこころのケア活動にも役立てられました。



被災者に救援物資を手渡す日赤職員

救援金の使途 合計 9,074万円



事業完了

中国青海省地震

2010年4月

標高4,000メートルの地にも届く支援



小学校の子どもたちに防寒ブーツをプレゼント



寝具を受け取るチベット族の親子

中国西部の青海省玉樹チベット族自治州を襲い、3,000人近い死者・行方不明者を出した青海省地震。標高4,000メートルでの再建工事は短い夏の間に限られるため、震災から2度目の冬をテントで越す被災者も少なくありません。

日本赤十字社は、テント暮らしの被災者7,250世帯に防寒用の寝具や衣類を、子どもたちには防寒ブーツを届けました。2012年秋には、日赤が再建を支援する寄宿制の小学校1校と病院2カ所が完成する予定です。

救援金の使途 合計 4億1,974万円



私は耳が不自由で、周りに家族もおらず、日々の暮らしは生活保護に頼っています。だからこのような温かい支援は本当に助かります。正直、標高4,000メートルを超えるこのへき地の村にまで日本人がやって来るのは想像もしませんでした。みなさんの思いやりは、私や村人たちにとって、一生の宝物になるでしょう。

右：日本赤十字社 中国駐在員 位坂 和隆

左：四川省甘孜(カンゼ)チベット族自治州 トゥー・ドーエーさん

ハイチ 大地震・コレラ流行

2010年1月・10月

大地震から2年、住民の健康向上を支援



防災の方法を絵で学ぶ避難民キャンプの子どもたち

マグニチュード7.0の大地震がハイチ共和国を直撃。死者23万人、負傷者31万人以上という甚大な被害をもたらし、今でも55万人がテントや避難民キャンプで暮らしています。さらに、全土に蔓延したコレラに47万人が感染、6,500人が亡くなりました。日本赤十字社は、地震被災者救援とコレラ対応のため、医療チームを派遣。治療のみならず、感染症予防を中心とした衛生知識の普及や予防接種も行いました。2010年7月からは、レオガン市にて保健・給水／衛生事業を展開し、人々の健康改善を目指しています。保健研修を開き、地域住民の中から健康相談に乗れるボランティアを育成したり、衛生教育を実施し、人々に手洗いのしかたや、汚れた川の水を飲むことが病気の原因になることを教えています。トイレや水道が普及していないこの国で、トイレや給水所を整備。水委員会も結成されています。地域の清掃活動も広げられ、住民自らコミュニティーを支えていく体制作りが進んでいます。



人形劇でトイレに行った後の手洗いの大切さを教える(小学校の衛生教育)



楽しく歌いながら手洗いの練習



排泄物と健康の連鎖について学ぶ衛生教育



© Keiichiro Asahara

ひどい脱水症状から一時は意識不明状態に
経口補水液が小さいのちを守る



コレラ蔓延時には、2,600人以上の患者を診察



新しく作られたトイレ、住民たちできちんと管理

救援金の使途 合計 21億6,000万円

コレラ対応 9,752万円

医療チーム派遣 3億4,483万円

緊急救援 1億2,473万円

事業管理費 1億6,418万円

職員派遣 1億1,977万円

ハイチ赤十字社支部整備 4,300万円

ハイチ赤十字社インフラ整備 4,300万円

ハイチ赤十字社事業支援 8,600万円

その他復興支援等 1億2,697万円

保健・給水／衛生 10億1,000万円

事業管理費 1億6,418万円

職員派遣 1億1,977万円

ハイチ赤十字社支部整備 4,300万円

ハイチ赤十字社事業支援 8,600万円

その他復興支援等 1億2,697万円

ありがとうの声



右:赤十字ボランティア ネスタンさん
左:相談する母親 アセフィーさん

ある日、2日前に赤ちゃんを出産した母親を赤十字ボランティアが訪問、母親の悩みを尋ねました。すると、赤ちゃんに固形食を与え下痢をしていると訴えきました。ボランティアは、固形食を止め母乳を与えるよう提案。数日後、それまで母乳の大切さを知らなかつた母親は、元気になった赤ちゃんを抱き「新生児ケアを学び、これからも母乳で育てます!」と嬉しそうに話してくれました。

パキスタン洪水

2010年7月

度重なる災害に負けない被災地

2,000万人が被災するという建国史上最悪の洪水災害に対し、緊急時には医療チームを派遣して病院や避難所で医療支援を行うほか、ビニールシートなどの提供や資金援助を行いました。その後は、4万世帯分の住宅再建を支援。また、これらの事業をモニタリング・評価する職員1人を2011年9月から派遣しています。



安全な水を供給することは衛生状態の向上に繋がる
©IFRC

救援金の使途 合計 1億6,450万円



職員派遣 1,267万円

西スマトラ地震

2009年9月

被災者のニーズに迅速に対応した復興支援

マグニチュード7.6の地震により多くの人命が奪われ、人々は家などの生活基盤を失いました。日本赤十字社は、直前に発生した西ジャワ地震と合わせて、被災地への支援を実施。発災直後から2011年9月まで救援・復興支援活動を展開しました。仮設住宅の建設や、建築職人や地域住民に対して住宅建設を学べるワークショップを開催し、災害リスクの軽減にも貢献しました。

事業完了



© Ken Kobayashi
ゲームで衛生観念を学ぶ子どもたち

救援金の使途 合計 3億222万円



職員派遣 2,029万円
安全な住宅建設のためのワークショップ 1,367万円

チリ大地震

2010年2月

沿岸部の復興をめざして

マグニチュード8.8の地震および津波が発生、被災者は200万人に及びました。

発災直後には医療チームを派遣して、入院病棟が全壊した公立パラル病院の機能回復を支援。その後は津波被害が甚大であった沿岸部の生計再建としてボートやエンジンを配付したほか、漁業や生産加工に携わる団体への支援を続けています。



早朝の漁から戻ってきたところ
通常3~4人で一緒に漁に出る

救援金の使途 合計 6億2,989万円



緊急救援 2,029万円

フィリピン台風

2009年9月

安定した住まいと生活

多くの住まいを損壊させたフィリピン台風。復興支援事業は2011年11月に終了し、9,100世帯分の住宅が再建しました。

人々は安心して暮せる家と安定収入の手段を得て、笑顔があふれるようになりました。

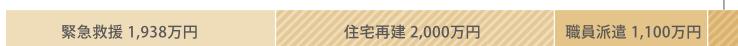
事業完了



© Ken Kobayashi
再建した家の軒先にカラフルな洗濯物がはためく

事業管理費 223万円

救援金の使途 合計 5,261万円



サモア地震・津波

2009年9月

災害に強い組織作りを

サモア地震・津波災害により、1万5,000人以上が被害を受けました。緊急支援に引き続き、現在はサイクロンや地震、津波、火山噴火など災害が多く発生する大洋州諸国で、迅速かつ効率的な災害対応ができるよう、地域全体の防災支援に取り組んでいます。



© IFRC
地域災害対応チームを育成し大洋州の災害対応能力を強化

救援金の使途 合計 7,730万円



職員派遣 2,493万円



私は海が大好きです。15歳の時から叔父と一緒に漁に出ており、4年が経ちます。津波で自分のボートを流され、とてもショックでした。仲間のボートでなんとか漁に出ましたが、再び自分のボートで海に出られるのが嬉しいです。日本のみなさん、心からありがとう！

ミゲル・ブラナダさん

台湾台風

2009年8月

将来の災害に備えて

過去50年で最も深刻な被害をもたらした台風により、多くの住民が避難所や仮設住宅に避難する中、日本赤十字社は200万円の資金援助と28戸の住宅再建を支援。日本の防災に関するノウハウや経験を共有する研修も支援しています。

事業完了



©台湾赤十字組織
再建された集合住宅

救援金の使途 合計 6,771万円



中国大地震

2008年5月

働くことが復興への大きな力に

9万人近い死者・行方不明者を出した大地震から間もなく4年。2012年秋までに日本赤十字社が支援する学校30校と医療施設89カ所のすべてが完成します。国際赤十字による職業訓練や小規模融資などの支援も、新しい生活の足がかりになっています。

救援金の使途 合計 51億7,489万円



©Atsushi Shibuya
新しくなった学校で元気よく遊ぶ子どもたち

事業管理費 8,747万円
職員派遣 5,000万円
救援物資の備蓄 4,158万円

住宅再建
17億2,061万円
生計再建 1億4,600万円

ミャンマーサイクロン

2008年5月

笑顔が戻った被災地

死者・行方不明者は14万人にも及び、同国史上最大規模の災害でした。約3年にわたり生計再建、保健・衛生、住宅・学校再建、災害対策などの分野で復興支援を実施。被災地には豊かな田園風景や人々の笑顔が戻り、ミャンマー赤十字社の活動もさらに活発になりました。

救援金の使途 合計 14億2,915万円



©Masako Imaoka / MRCS / JRC5
「将来は学校の先生になりたいです！」
右：キン・ミヤット・モウさん

職員派遣 2,519万円
災害対策 7,314万円
保健・衛生 8,353万円

事業管理費 5,261万円

パキスタン地震

2005年10月

数々の困難を乗り越えて

地震、洪水、土砂崩れなど自然災害や武力衝突による治安の悪化など、パキスタンを取り巻く環境は波乱に満ちています。このような状況の中、パキスタン北部地震の復興支援事業は着実な歩みを進めています。2009年末には大半の事業が終了。2011年には女子中学校と2つの職業訓練校が完成し、地域の人々にとって学びと技能習得の場となっています。残る男子中学校は2012年中の完成を目指します。



職業訓練校に設置されたミシン

救援金の使途 合計 23億4,546万円



スマトラ島沖地震・津波

2004年12月

いのちと健康を守った復興支援

スマトラ島沖を襲った地震・津波災害は、22万人以上の犠牲者を出し、史上最悪の被害をもたらしました。日本赤十字社は発災直後から医療チームを現地に派遣、その後も長期にわたってインドネシアとスリランカで復興に取り組み、住宅や病院の再建、職業訓練や生計向上をはじめ、保健の分野で、被災した人々の支援を行いました。紛争の影響を受けながらも、赤十字の支援は続きます。



©Nobuyuki Kobayashi
笑顔の子どもたち

その他被害国への支援 9億2,546万円



日本中、世界中の「きもち」を結集して
赤十字は被災地支援を続けます。

東日本大震災

2011年3月

東日本大震災では、発災直後から医療救護班、こころのケアチーム、ボランティアの派遣、毛布、マットなど救援物資の配付など、緊急支援を行いました。4月からは仮設住宅へ入居する方への生活家電セット寄贈、子ども、高齢者、医療分野での復興支援を行っています。また、義援金の募集受付団体として3,000億円以上をお預かりし、15都道県へお届けしました。約2,846億円以上が市町村を通じて被災者へ配分されています。みなさまのあたたかいご支援に心より感謝申し上げます。



外遊びを控えている福島の子どもたちのために、屋内の遊び場「すまいるばーく」を開設



仮設住宅とお店や役場を巡回するコミュニティーバスやスクールバスを支援



高齢者施設に介護用ベッド(959台)や福祉車両(132台)を寄贈



世界で支えあうということ。
187の国と地域にひろがるネットワーク。

国内外の災害救護・病院や社会福祉施設の運営、血液(献血)事業、救急法の普及、また学校教育を通じた国際人道法の普及など、世界各国で幅広い活動を行っています。

日本赤十字社へのご協力を お願ひいたします。

みなさまの「きもち」が人を救います。

赤十字はみなさまの「きもちのしるし」を事業計画とともに活動に役立てています。私たちの活動にご協力をお願ひいたします。

義援金・海外救援金・活動資金の違いと流れ

東日本大震災義援金

国内外の
個人・法人のみなさま

各被災都道県ごとに
設置された
義援金配分委員会

全額、現金で
被災者のみなさまへ

海外救援金

世界各国の
赤十字社・赤新月社

赤十字が行う復興支援事業
生活家電の配付など被災者の
生活再建に役立てられます。
※海外で災害が起きた場合は、日本
国内で集められた海外救援金が
日本赤十字社を通じて、被災国の
赤十字社・赤新月社に送られます。

活動資金

国内の社員(会員)の
みなさまの寄付金

災害直後の緊急支援と、
日本赤十字社の平時の活動
災害時は医療支援、こころの
ケア、救援物資の配付。平時は
救急法の講習普及、ボランティア
や青少年赤十字の育成など。

活動資金へのご協力をお願ひいたします

1 繼続して協力していただける方

毎年500円以上の資金協力をいただける方を赤十字では「社員(会員)」とお呼びしています。個人・法人を問わず、どなたでも社員になっていただけます。これは赤十字事業の原動力であり、組織の根幹をなすもので、一人でも多くの方に社員になっていただけるようお願いしています。

2 今、協力していただける方

継続的ではなくても、今、ご寄付をいただける方を随時募集しています。
ご都合にあつたかたちでのご支援をお願いいたします。

- 郵便局または、ゆうちょ銀行直営店からの振込
- 銀行からのお振込

※これらの方法でお振込いただく際には、お住まいの都道府県によって口座番号などが異なりますので、お手数ですがナビダイヤルかホームページでご確認ください。

- クレジットカードや各種ポイントを活用した寄付もございます。

お電話・WEB・窓口でお申込ください

また、ホームページからは預金口座振替の申込書をダウンロードいただけます。

ナビダイヤル

0570-009595

きゅうご きゅうご
ナビダイヤル

日本赤十字社 社員に参加したい

検索

http://www.jrc.or.jp/syain/

■ 赤十字に寄付された場合の 税制上の優遇措置のご案内

日本赤十字社にご寄付いただいた活動資金は、その内容や期間によって個人の所得税や企業などの法人税での優遇措置が受けられます。また、遺言により財産の一部の受取人として日本赤十字社を指定することや、ご遺族が相続された財産を日本赤十字社に寄付することによって、相続税での優遇措置もあります。

■ 表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けております。詳しくは、日本赤十字社の各都道府県支部までお問い合わせください。

活動への参加・社員への 加入・寄付などのお問い合わせは



日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp>



ナビダイヤル



0570-009595

きゅうご きゅうご



最寄りの都道府県支部・病院・血液センターで



公式facebookページ

<http://www.facebook.com/japaneseredcross>